

第5学年 道徳学習指導案

日時 平成27年11月6日(金) 3校時
学級 5年1組(男子9名 女子13名 計22名)
授業者 高橋 尚也

1 主題名 希望を持って【1-(2) 不とう不屈, 希望】

2 資料名 「ベートーベン」(「小学校道徳5 希望を持って」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章の道徳 第5学年及び第6学年の内容項目1-(2)は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」である。この内容項目は次のように発展していく。

低学年1-(2)
自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。

中学年1-(2)
自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。

高学年1-(2)
より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

中学校1-(2)
より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

高学年の段階は児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期だといわれる。ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだりする。同時に、自信がもてなかったり、夢と現実との違いを意識したりする時期でもある。このような時期であるからこそ、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えるようにすることで、様々な生き方へ関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てていくことは、意義のあることである。

(2) 児童について

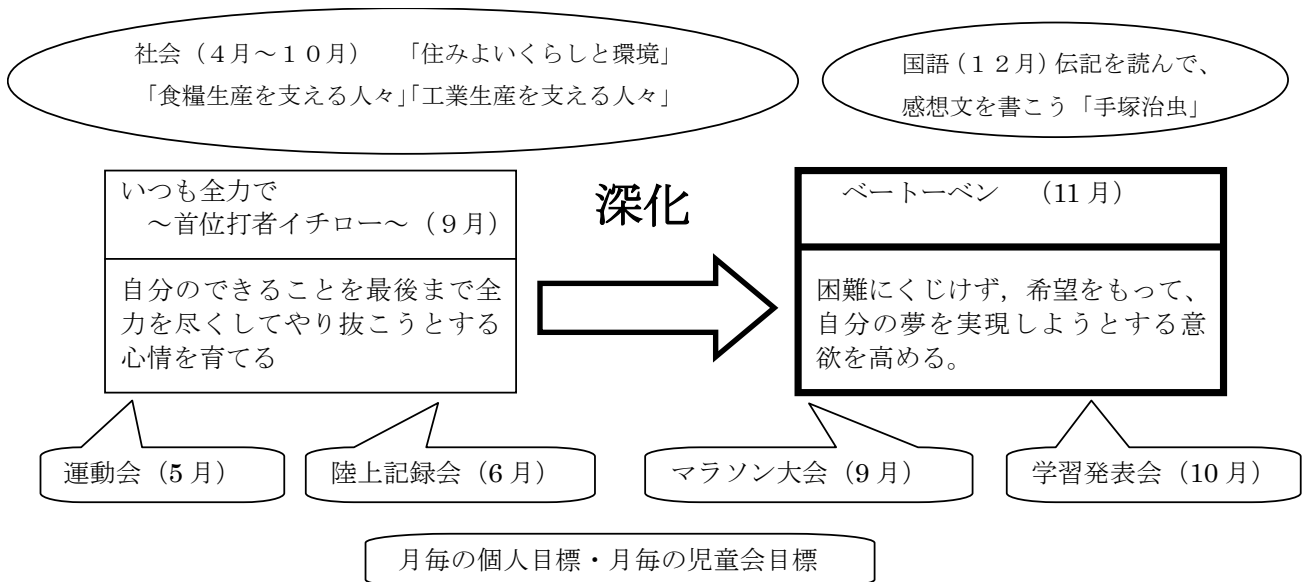
本学級は、素直で明るく伸び伸びと活動している児童が多い。毎月の児童会の取り組みに対して自分自身や学級全体の生活実態を振り返りながら話し合いを行って目標を考えたり、取り組み後には成果と課題を話し合っ反省をまとめたりしている。日常的に目標を立て、それに向かって取り組んでいくという経験をしていくことで努力することの大切さを感じている児童は多い。しかし、目標を立てたものの意識せずに漫然と生活を送ってしまう児童や困難なものや苦手なものには取り組む前からあきらめてしまう児童もいる。

事前のアンケート調査では、約7割の児童は将来なりたい夢を持っている。しかし、夢に向かって努力していることがある児童は、そのうちの約7割である。夢は持っているものの自分で努力目標を立てて生活している児童は少ない。また、日々の生活の中で「面倒くさい」「大変だ」などという理由から手を抜いてしまう児童も約7割いることが分かった。

そこで、本指導を通して、夢を実現するためには、自分のできることを全力でやり抜くことや困難なことでもあきらめずに取り組んでいくことが大切であることを考えさせたい。

4 教科・領域との関連と補充・深化・統合の視点

- ・ 1－(2) 不とう不屈・希望・勇気について、児童は「いつも全力で～首位打者イチロー～」 「ベートーベン」という2つの資料をもとに深めていく。「いつも全力で～首位打者イチロー～」では、「自分のできることを最後まで全力を尽くしてやり抜こうとする心情を育てる」をねらいとして、夢や目標を実現させるためには、高い目標を持ち、手を抜かずに自分の納得のいくやり方で全力で挑み続けることが大切であることを主人公であるイチローの姿と気持ちから学んできた。
- ・ 社会科では、「住みよいくらしと環境」「食糧生産を支える人々」「工業生産を支える人々」の学習を通して、人々はさまざまな問題点を努力と工夫によって克服しながらよりよいものを求めて働いていることを学んできた。その際に、復興副読本も活用して学んできている。
- ・ 運動会や陸上記録会、マラソン大会などでは、自己の目標を立て、それを達成するために練習を積み重ねたり、課題点を改善する方法を考えたりする経験をしてきた。また、児童は日常的な様々な場面で目標を立て反省をするという経験を積み重ねてきている。
- ・ 本資料「ベートーベン」では、「困難にくじけず、希望をもって、自分の夢を実現しようとする意欲を高める。」をねらいとして指導していく。



5 本時の指導

(1) ねらい

困難にくじけず、希望をもって、自分の夢を実現しようとする意欲を高める。

(2) 指導にあたって

- ・ 導入では、ベートーベンの作曲した曲や人物像について知っていることを話し合うことで、資料への方向付けを図る。
- ・ 展開では、ベートーベンの心情の変化を中心に話し合わせる。夢と現実の狭間で思い悩んだりネーフェ先生の言葉で夢を取り戻したりするベートーベンの気持ちの変化に着目させることで、どんな困難にも前向きな気持ちで挑戦することの大切さに気付かせたい。その後、自分の生活経験の中から困難なことに出会ったときのことを想起させるとともに、夢に向かって努力していくことのイメージを持たせ、夢を実現しようとする意欲を高めていきたい。
- ・ 終末では、不とう不屈について考えを深めるために、復興副読本から高い理想をもってあきらめずに夢を実現した人を紹介する。

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 ベートーベンの知っている曲や人物像について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家。耳が聞こえない。 ・才能のある人。 ・「第九」 ・「運命」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベートーベンの生い立ちについて簡単に説明し資料への方向付けを図る。 ・児童の発言にあった曲を実際に聴かせる。
展開 35分	<p>2 資料について話し合う。</p> <p>○ネーフェ先生に「才能がある。」とほめられた時、ベートーベンはどんなことを思ったのだろう。</p> <p>○ベートーベンの心が重くしずんでいったのは、どんなことを思ったからだろう。</p> <p>◎ネーフェ先生の話聞いたベートーベンが、「つらいことをよりつらく考えるのはよそう。」と思えたのは、どうしてだろう。</p> <p>3 今までの生活を振り返る。</p> <p>○つらいことばかりを考えて心が重くしずんでしまうようなことはありましたか。そんなときどうしましたか。</p> <p>○これから自分の夢を実現するために、どんなことを大切にしていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・もっと作曲がしたい。 ・将来は、作曲家になりたい。 ・いい曲をたくさん作りたい。 ・仕事を失った父親や体の弱い母親たちの面倒を見るのは大変。 ・家族のために頑張って仕事をしなくては。 ・いくら才能があっても働いてばかりで作曲なんかできない。 ・つらいのは自分だけじゃないと分かったから。 ・心を閉じないようにしようと思った。 ・心を開けておくことが大切だと感じたから。 ・将来のために美しいものをたくさん見ようと思えた。 ・どうして自分だけできないんだろうと考えて、やりたくなることがあった。 ・自分の思った通りにできないことがあってやめたくなることもあったけれど、自分のためにならないと思ってやり抜いた。 ・夢を実現するためにいろいろなことを経験してあきらめずにがんばりたい。 ・夢を実現するのは大変かもしれないけど、前向きに考えて取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み聞かせ後、感想を聞き、児童に課題意識を持たせる。 ・ベートーベンが才能を認められて喜びと希望を持ったことを捉えさせたい。 ・ベートーベンの境遇や夢と現実で思い悩んでいる姿に共感させ、困難にくじけそうになっていることを捉えさせる。 ・ベートーベンが今まで後向きな考え方をしていたこととネーフェ先生の話聞いて前向きな気持ちを持つことができたことを捉えさせ、再び夢と希望を持たせたことに気付かせる。 ・自分自身の日常にも様々な困難があることと、それを乗り越える経験をしていることに気付かせる。 ・将来の夢を実現するまでには様々な困難が待ち受けていることを捉えさせ、それでも夢の実現に向けて希望を持ってがんばろうとする意欲を持たせる。
終末 5分	4 復興副読本から高い理想をもってあきらめずに夢を実現した人を紹介する。		<ul style="list-style-type: none"> ・不とう不屈や希望には、いろいろな姿があることに気付かせ、考えを深めさせるようにする。

(4) 板書計画

